みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

標準衣服名の作成

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 猿田, 佳那子, 田中, 昌美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003541

3．標準衣服名の作成

3.1　日本

一般になじみやすい名称をつけることが目的であるから，現代和装を基準に考える。現代和装は，儀礼服化の一途をたどっているが，ここでは野良着などの作業着もふくめて考える。これらは属性表（p. 22）の C. 形態マークでは，「脚衣」，「腰衣」，「展開衣」のいずれかに相当するので，マーク別に慣用衣服名の示す概念を検討して，標準衣服名を決定した。以下では，本カタログで採用した標準衣服名を［　　］付きで表記した。

3.1.1　C. 形態マーク「脚衣」

標準衣服名：［袴］［もんぺ］［股引］［ゴム入りもんぺ］［猿股］

現代和装のうち，形態マーク「脚衣」に相当するものは，儀礼服としての袴が第一にあげられる。

もんぺ，股引，裁着など山袴類は，使用地域や使用者の性別，使用年代によって形態概念と名称との関係が複雑に交錯している。民博標本名をみても，衣服の形態と対応しているとは限らない。しかし，標本名や現地名をひとまず無視して標本を観察すると，膝下以下を脚に密着させるグループ［股引］は，細分された襠布や曲線裁断，鞐や紐による着装などの点で，緩やかなグループ［もんぺ］とは構造上あきらかな違いがある。ウエストにゴムを入れたもんぺは，成立の背景や着用法，構成技術においても紐式のもんぺとは異なる。

3.1.2　C. 形態マーク「腰衣」

標準衣服名：［腰巻］［前掛］［褌］

形態マーク「腰衣」は構成が単純であり，これに相当する慣用衣服名は，着用法や着用目的からつけられたものが多い。収集者が採録した現地名はさまざまであるが，これに準じて類別した。

3.1.3　C. 形態マーク「展開衣」

標準衣服名：［袂袖着物］［筒袖着物］［広袖着物］［半纏］［羽織］［和装コート］［和

装袖なし］［襦袢］

軀幹部を広くおおう衣服は，一般には，丈の長短，袖の形，衿の形，着用目的などの組み合わせで名づけられている。

しかしたとえば長着はもっともよく用いられる和服名であり，いうまでもなく着丈が長いことを特徴とするが，着丈は，身長や着装法によって長くも短くもなる。博物館標本は，着用者を特定できないため，着丈を標本分析の視点とすることはできない。

それにたいして袖の形は，いわゆる洋服との相違を特徴づけるもののひとつである。袖の形態は，誘目的な固有属性であり，着用目的や使用地域などの非固有属性とも関連がふかい。

したがって標準衣服名としては，基本的な袖の三形態によって，［半纏］以下のやや特殊なものをのぞく，日本衣服の大部分を［袂袖着物］［筒袖着物］［広袖着物］に三区分した。

現代和装における羽織は，形態的特徴がはっきりしており，そのまま標準衣服名としてもちいた。コートや袖なしも特徴がはっきりしており，日本以外の衣服との混同をさけるために“和装”を冠して標準衣服名とした。現代和装における襦袢という名称にはさまざまな形態・種類が含まれるが，ここでは内衣としての特徴をもつ展開衣の標準衣服名とした。

3.1.4　現代和装にない形態

標準衣服名：［時代衣裳］

この区分は，現代和装を基準に作成した標準衣服名では処理しきれない標本のために，もうけたものである。

たとえば大紋は，現代和装をもとにした上述の名称にあてはめるなら［半纏］ということになり，陣羽織は［和装袖なし］となるが，これでは違和感が大きすぎる。これらは総称である［時代衣裳］を標準衣服名とし，（　）付きで裃，狩衣などと，歴史的衣服名を併記した。

3.1.5　標準衣服名（日本）表

地域民族分類が日本とされている標本の標準衣服名の一覧を下記に記す。便宜上，属性コードのくみあわせを例示したが，例外も多い。

標準衣服名	属性コードのくみあわせ例	備　考
袴	B3 or B4, C1, F12, F63, F77, F20 or F48	多数の襞が裾まである　行灯袴は例外で C21
もんぺ	B3 or B4, C1, F20, F63, F77	脚部をゆるやかにつつむ
股引	B3 or B4, C1, F20, F48, F63, F77	脚部をぴったりとつつむ
ゴム入りもんぺ	B3 or B4, C1, F20 or 48, F63	ウエストにゴム入り
猿股	B2, C1, F63	丈の短い下着
腰巻	B3 or B4, C21, F77	現地名に準じて命名
前掛	B3 or B4, C21, F77	
褌	B2 or B3, C21, F77	
袂袖着物	B4 or B5, C4, F47, F75	筒袖との区分は，袖幅より袖丈が長いこと
筒袖着物	B4 or B5, C4, F47, F75	袖幅より袖丈が短い
広袖着物	B4 or B5, C4, F47, F75	筒袖との区分は，袖幅より袖丈が長いこと
半纏	B3 or B4, C4, F47	袖の形はとわない　うちあわせなし
羽織	B4, C4, F47, F77 or F77?	折り衿　乳つき
和装コート	B4, C4, F47, F75	トンビ，道行など
和装袖なし	B3 or B4, C4	
襦袢	B2～B4, C4	衿や袖が別布など下着としての特性をもつ
時代衣裳		（ ）付きで歴史的な名称を併記

注）今回の属性表では，C. 形態マークは，コードでなく言葉であらわしているが，内容は異ならないので，ここでは便宜上，詳細コード表（p. 29）の C コードを用いる。

（猿田佳那子）

3.2　日本以外

3.2.1　日常衣服名の転用

標準衣服名（以下衣服名と称す）は，一般的な需要への対応を，第一の目的において作成した。そこで，日本以外の衣服名としては，我々の日常衣服名であるヨーロッパ系衣服の名称を転用した。

日常衣服名の転用にはいくつかの問題点がある。そのひとつは，日常語のもつ概念内容のあいまいさである。

とはいうものの，我々は，ジャケット，シャツなどの日常衣服名に従って，衣服を識別している。とすれば，日常衣服名には非常にゆるやかではあるが，人々の間に共通の認識や基準があるといえよう。

今回の名称づけは，こうした一般の人々の共通認識に依拠して，その衣服が，だいたいどのようなタイプであるのかをさししめすのである。したがって，衣服名は同定

機能としては，所せん蓋然的でしかありえないが，より厳密な検索については，ほかの属性項目が用意されている。

日常衣服名の転用における，もうひとつの問題点は，ある特定文化の日常衣服名を，異文化の衣服タイプに適合させることが，可能であるのかということである。当初この問題に対し，我々は各衣文化圏ごとの衣服名を作成することを試みた。しかし，この計画は大幅に変更することとなった。というのは，近代中国の衣服名を例にとれば，日本語のなかの日常衣服名としては，さしあたりチャイナドレスという名称しかみあたらない。一般に，異文化の衣服タイプを示すわれわれの日常衣服名は，きわめて乏しい。

以上のような理由から衣服名は，問題はあるものの，我々の日常衣服であるヨーロッパ系衣服の名称から選ばざるをえなかった。

3.2.2　標準衣服名の選択

標本資料の同定手段として用いる衣服名は，形態の特性をしめすものが望ましい。しかし，形態は着装や着用目的と強い関係で結びついている。今回衣服名として選んだ日常衣服名においても，その多くには，着装や着用目的の特性が含まれており，形態の特性だけをしめす名称はほとんどない。

とはいえ，衣服の文化的態様についての標本付随情報が不足している実状においては，着装，着用目的をも考慮した名称づけはできない。

そこで，衣服名には，着装や着用目的に関する特性は顧慮せずに，形態と素材の特性に着目することを示すために，「型」という言葉を添えることにした。

今回は日常衣服名から，［パンツ型］［マント型］［スカート型］［エプロン型］［コルセット型］［コート型］［ワンピース型］［ジャケット型］［シャツ・ブラウス型］［ベスト型］［セーター型］［カーディガン型］［ポンチョ型］［コンビネーション型］［ブラジャー型］の15種類を選択した。

3.2.3　付随情報

標本に信頼できる付随情報がある場合は，その情報を考慮して衣服名を付与する。

3.2.4　判別基準

［パンツ型］

属性表（p. 22，以下おなじ）の C. 形態マークのうち，「脚衣　両足を別々につつ

む」に準じる。ただし，股下を覆う部分のない脚絆類は含まない。

[マント型]

属性表の C. 形態マークのうち，「肩衣　腕，肩，あるいは頭も覆う」に準じる。

[スカート型]

スカート型は，西欧型スカートだけではなく，布を単に筒状に縫い合わせただけの構造も含む。

前カタログでは，トップの高いスカートとワンピースの区別は，アームホールの有無という視点から判断した。例えば，サスペンダーつきのスカートとワンピースの区別は，主として肩紐の幅を判断基準とした。今回は，アームホールの有無や肩紐の幅と共に，ネックオープニングの形式，胸部を覆う部分の構造もあわせて判断する。

[エプロン型]

一枚布の両端に紐がつけられている場合には，この名称を付与する。したがって，場合によっては，巻スカート，腰巻，褌にもこの名称が付与される可能性がある。

[コルセット型]

コルセットは主として胸部，胴部をおおい，形を支持するための補強材をもつものとする。

[コート型；ワンピース型；ジャケット型；シャツ・ブラウス型]

丈による判別

コート型，ワンピース型とジャケット型，シャツ・ブラウス型の判別は丈によっておこなう。その境界は，およそ腰丈である 80 cm とする。

衣服の丈は着用者の体格によって異なり，この 80 cm は絶対的な基準ではない。例えば縦横の寸法の比率から子供用衣服と類推される場合などは，この基準によらない。

丈以外の特性による判別

今回の名称づけにおいて，分析者がもっとも迷ったのは，コート型とワンピース型，ジャケット型とシャツ・ブラウス型の判別である。

というのは，これらの日常衣服名の概念には，着重ねかたがその基本にあり，今回のように，着装のしかたを想定せずに判別することは困難である。なおかつ，形態，構造，素材の特性においても，現代ファッションでは，コートとワンピースの境界，ジャケットとシャツ・ブラウスの境界があいまいになってきている。

我々は，例外的な事例はある，ということを前提に，主に以下のような視点から判別した。

そのひとつは，素材の厚さと硬さである。一般にコート型やジャケット型の素材は，ワンピース型やシャツ・ブラウス型に比べて厚く，あるいは硬いと考える。

形態や構造という視点からは，コート型やジャケット型は，ワンピース型やシャツ・ブラウス型に比べて身幅のゆとりが大きい（丈との比率で推定），あるいは前身頃が突合せで留め具のない場合はワンピース型やシャツ・ブラウス型とは考えにくい，というような点から判別した。

トップから裾までの開放の有無は，各衣服タイプの判別基準には役立たないと考えた。

身頃が打ち合せの，カフタン形式のような衣服は，異文化の衣服を通覧する上では，重要な衣服タイプであるが，この衣服タイプを表わす日常衣服名がみいだせないため，今回は衣服名に加えなかった。

原則として，カフタン形式の衣服にはコート型の名称が付与される。

[ベスト型]

袖のない，およそ腰丈（約 80 cm）までの衣服には，比較的素材が厚く硬い場合にはベスト型という名称を付与し，薄く柔らかな素材の場合は，シャツ・ブラウス型の名称を付与する。また，丈と素材以外の特性，具体的にはネックオープニングの形式，突合せの場合の留め具の有無も，判別の基準とした。

[セーター型，カーディガン型]

今回はジャージ素材の衣服名をとくに設けなかったので，ジャージも対象とする。組物は含まない。

セーター型とカーディガン型の判別は，トップから裾までの開いた部分の有無という視点から行なう。

丈についてはセーター型，カーディガン型ともに，およそ腰丈程度（約 80 cm）までと考える。

[ポンチョ型]

属性表の C. 形態マークのうち，「貫頭衣　両脇が上から下まで開いている」に準じる。

今回の衣服名のうち，この名称だけがヨーロッパ系衣服の名称ではない。しかし，この名称の周知性を考え，衣服名に加えた。

[コンビネーション型]

股下を覆う部分をもち，上半身と下半身を覆う部分が一続きになっている衣服をさす。覆われる範囲，密着性の有無は，問わないので，「ワンピース型水着」「作業用の

つなぎ」のような衣服タイプにもこの名称が付与される。

[ブラジャー型]

属性表の C. 形態マークのうち,「乳房をおおうもの」に準じる。着用目的，着装方法は問わないので，ブラジャーと名付けられても，ファンデーションに限らない。

3.2.5 標準衣服名（日本以外）表

日本以外の衣服名の一覧を下記に記す。便宜上，属性コードのくみあわせを例示したが，例外もおおい。丈による区分をしない衣服名については，B. 丈マークを記さない。

標準衣服名	属性コードのくみあわせ例	備　考
パンツ型	C1	覆われる範囲はとわない
マント型	C20	ケープ，クローク，チャドルを含む
スカート型	C21	筒状に縫製しただけの構造も含む
エプロン型	C21, F77	褌を含む
コルセット型	B1～B2, C21	胸部，胴部を覆い，補強材をもつ
コート型	B4～B5, C4 or C3, F47	トップから裾までの開放の有無はとわない
ワンピース型	B4～B5, C3 or C4, F47	C4 の身頃が突き合わせの場合は，留め具をもつ
ジャケット型	B1～B3, C4 or C3, F47	トップから裾までの開放の有無はとわない
シャツ・ブラウス型	B1～B3, C4 or C3, F47	C4 の身頃が突き合わせの場合は，留め具をもつ
ベスト型	B1～B3, C4 or C3	
セーター型	B1～B3, C4, D30, F47	ジャージを含む。組物は含まない
カーディガン型	B1～B3, C3, D30, F47	ジャージを含む。組物は含まない
ポンチョ型	C5	両脇が上から下まで開いている
コンビネーション型	C6	覆われる範囲，密着性は問わない
ブラジャー型	B1, C002	ファンデーションに限らない

注）今回の属性表では，C. 形態マークはコードでなく言葉であらわしているが，内容は異ならないので，ここでは便宜上，詳細コード表（p. 29）の C コードを用いる。

（田中昌美）

文　献

大丸　弘
1991「固有属性分析による衣服標本カタログ」『国立民族学博物館研究報告別冊』13号